

平成23年2月

# 佐々木修治 学位論文審査要旨

主査 池口正英  
副主査 井藤久雄  
同 村脇義和

## 主論文

Clinicopathological and patient characteristics of early gastric neoplasia  
endoscopically resected with loss of Mlh1 expression

(内視鏡的に切除されたMlh1陰性早期胃腫瘍の臨床病理学的特徴)

(著者：佐々木修治、八島一夫、林暁洋、武田洋平、八杉晶子、香田正晴、河口剛一郎、  
原田賢一、井藤久雄、村脇義和)

平成23年 Oncology Letters 掲載予定

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は内視鏡切除された早期胃腫瘍を用いて、Mlh1、P53の蛋白発現、HGM、CD10、MUC2の形質発現と臨床病理学的背景の関係について検討したものである。その結果、内視鏡的に切除した早期胃腫瘍において、早期胃癌ではMlh1発現異常は高齢女性で有意に多いことが明らかとなった。また悪性腫瘍の家族歴がある患者、腫瘍が隆起性である患者でMlh1異常の頻度が高い事が明らかになった。早期胃癌におけるMlh1蛋白発現異常は年齢、性別、家族歴、腫瘍の発育形態と関連する事が明らかとなり、明らかに学術水準を高めたものと認める。